

◆北面外濠の調査 ― 第81-6次

はじめに

この調査は、個人住宅の改築に伴う事前調査として、
榎原市醍醐町で実施した。調査地は藤原宮の北面大垣の
外濠にかかり、その検出を主目的として、敷地の北より
に南北5m、東西2mの調査区を設けた。

調査地の土層は、表土・床土下に厚さ0.1mほどの灰褐色
砂質土があり、その下(表土下約0.4m)は暗黄灰色粘
質土の地山となる。

遺構

主な遺構は、北面外濠と柱穴1個で、ともに地山面で
検出した。他に灰褐色砂質土上面から掘り込んだ土坑な
どがあるが、遺物は出土しなかった。

北面外濠SD145は、南岸を検出した。検出した幅は約1
mで、調査区北端での深さは約0.7mである。溝心はさら
に北になる(推定幅約5m)。藤原宮期の土器が少量出土
した。柱穴は一辺約0.7m、深さ約0.7m。柱は抜き取っ
ている。痕跡から、柱の径は20cmほどになる。1個だけ
で建物か堀か不明だが、掘形からみると北で西に振れる。
柱抜き穴や掘形から、古墳時代の布留式の土師器甕が出
土した。

(毛利光俊彦/史料)

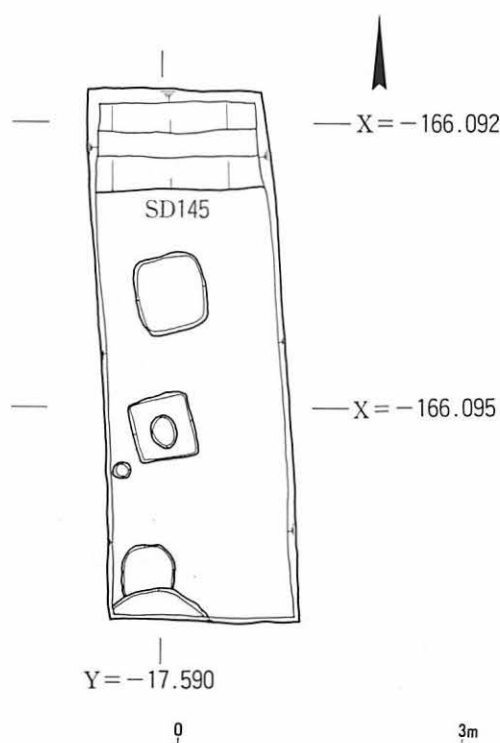


図11 第81-6次調査遺構図 1:80

コラム: あすかふじわら ①

1995年度	1996年度			
冬	春	夏	秋	冬
黒崎 直	巽 淳一郎	毛利光俊彦	黒崎 直	松村 恵司
千田 剛道	深澤 芳樹	寺崎 保広	千田 剛道	小澤 毅
西口 壽生	佐川 正敏	花谷 浩	西口 壽生	島田 敏男
近藤 大典	藤田 盟児	荒木 浩司	水戸部 秀樹	長尾 充
	村上 隆			伊藤 敬太郎
	羽鳥 幸一			

◆現場班ラインアップ

1995年度冬の現場班は、黒崎総担当で12月18日
にはじまり、最後の埋め戻しが終わったのが6月6日。
4月からの新年度は、春は深澤総担当で、4月2日
から8月19日まで。夏は寺崎総担当で7月2日から
11月18日まで。秋は、千田総担当で、10月7日
から翌1997年2月28日まで。冬は島田総担当で1月9日
から5月6日まで、それぞれ稼働した。この他、現
場には、随時、国内の研修生が混じって、ミャンマ
ーなどからの多くの外国人が現場に参加し、国際色
にあふれた。(C)